

SBIインシュアランスグループ株式会社**2026年3月期 決算説明の要旨****(2026年5月12日)**

関連資料

1. 2026年3月期 決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）（動画）
2. 2026年3月期 決算説明資料（プレゼンテーション資料）

掲載先 URL： <https://www.sbiig.co.jp/ir/irvideos/index.html>

（前略）

<連結業績>

- ・ 本日（5月12日）11時30分に公表した26年3月期決算についてご説明します。本日は、来期（27年3月期）の業績予想、配当予想も公表しましたので、これらについても合わせてご説明します。
- ・ （プレゼンテーション資料（以下「資料」）P.4）2026年3月期の連結業績です。経常収益は、前期比18.5%増加の1,403億6千2百万円。経常利益は、39.0%増加の131億6千4百万円。「親会社株主に帰属する当期純利益」は、44.8%増加の28億8千万円でした。おかげさまで、各項目ともに、過去最高金額でございました。
- ・ （資料P.5）当期の経常収益は、保有契約件数の増加に加え、自動車保険などの商品で保険金支払いの増加に対応して進めて参りました保険料の見直しが増収幅を押し上げました。生命事業で特別勘定の資産運用収益を計上したことも増収要因となりました。
- ・ （資料P.6）保有契約件数は、前年同月末比6.2%増加の317万件でした。引き続き、全事業で

増加しました。

- ・（資料 P.7）収入保険料は、前期比 12.6%増加の 1,216 億 7 千万円でした。収入保険料も全事業で増加しました。
- ・（資料 P.8）経常利益は、大幅な増収に加え、業務効率が上がった効果もあり、39.0%の大幅な増加でした。5年前の 21 年 3 月期と比べると、経常利益は 3.4 倍になりました。
- ・（資料 P.9）（親会社株主に帰属する当期）純利益も 44.8%の大幅な増加でした。純利益は、5年前の 3.8 倍になりました。
- ・（資料 P.10）期末配当は、2度の増額修正を経て、1株あたり 46 円 50 銭としました。前期が 23 円ですので、2倍超の配当です。連結配当性向は 40.1%です。
- ・（資料 P.11、12）IFRS の情報です。当社は 30 年 3 月期第 1 四半期より、IFRS で決算を行っていきます。上の表は、当社の親会社である SBI ホールディングスの IFRS の連結業績に含まれている当社グループの税引前利益です。下の表は、当社の日本基準の税引前利益です。26 年 3 月期の税引前利益は、日本基準で 43 億円、IFRS で 119 億円でした。IFRS では利益の金額が、日本基準の 2.8 倍の大きさに測定されました。
- ・日本基準の利益と IFRS の利益の差異の内容や金額の倍率は、每期一定ではありませんが、当社のような成長途上の保険会社では、原則として、IFRS の利益が大分大きい金額となります。ただし、IFRS は、有価証券の時価の変動が期間損益に反映するため、市場環境によって、期間損益が大きく変動します。当期は有価証券の時価が、前期末比で約 30 億円大きくなりましたので、IFRS の利益には、その評価差額の +30 億円を含んでいます。

<次期の連結業績予想、配当予想>

- ・（資料 P.13-16）来期（27 年 3 月期）の連結業績予想、配当予想について、ご説明します。来期も好調が継続する見込です。収益・利益・配当、すべて過去最高金額となるものと予想しました。経常収益 1,500 億円、経常利益 160 億円、親会社株主に帰属する当期純利益 36 億 2 千万円、1 株当たり配当額 59 円 00 銭です。前期比増加率は、親会社株主に帰属する当期純利益が

25.7%の増益予想、26.9%の増配予想です。

- ・今回の連結業績予想から、セグメントごとの内訳を合わせて公表していきます。資料は経常収益の予想金額の内訳です。生保については、26年3月期の実績に会社の利益に影響を与えない特別勘定にかかる収益が47億円程含まれていましたので、それを除いた比較できる金額も表示していきます。
- ・セグメント利益の予想金額は、損保と生保が20%超の増加、少短が35.6%の増加です。
- ・（資料P.17）来期は、5か年の中期経営計画の4年目にあたります。この計画は、5か年目の28年3月期に、親会社株主に帰属する当期純利益を、計画前の3.2倍にあたる40億円とする数値目標を掲げています。これを公表した23年5月には、目標が高すぎるというご意見を多くいただきましたが、再来期の目標40億円に対して、来期の予想が36億2千万円と、目標達成に近付いて参りました。今後は、目標の40億円をどれだけ上回ることができるかにご期待をいただきたいと思えます。
- ・当社の利益は自然災害によって影響を受けますので、期初の業績予想は大分保守的に予想しています。この数年、期初の業績予想を上回る実績で着地していますので、うまくいけば、来期中に再来期の目標40億円を達成できれば良いなど、個人的には考えています。

<セグメントごとの経営成績>

- ・（資料P.18-20）26年3月期決算の説明に戻り、セグメントごとの経營業績のポイントをご説明します。
- ・経常収益は、全事業で増加しました。生保が30.0%の増加。損保15.8%、少短6.4%の増加でした。
- ・セグメント利益も全事業で増加しました。利益構成比は損保が最も大きく55.3%。生保26.7%、少短18.0%でした。少短は、直前の数年間、保険金支払いの増加などにより、利益が下押しされていましたが、当期は2.8倍の増益となりました。増収に加え、業務効率が上がりコストの上昇を抑えられたことが、増益に貢献しました。

<損害保険事業>

- ・（資料 P.21-24）損保事業のセグメント利益は、29.8%の増加でした。当期は、税金費用が増加しましたが、増収と業務効率化によって大幅な増益となりました。税引前利益の前年同期比も資料に掲載しています。
- ・ 正味損害率は前期と変わらず、正味事業費率が 1.5 ポイント低下しました。コンバインド・レシオも 1.5 ポイント低下です。

<生命保険事業>

- ・（資料 P.25-27）生保事業のセグメント利益も増加しました。前期には、政策保有株の売却益等の一過性の収益があり、当期にはそれがありませんが、20.8%の増益となりました。
- ・ 増収と継続的な業務効率化によって基礎利益が増加しました。

<少額短期保険事業>

- ・（資料 P.28-30）少短事業のセグメント利益は、先ほどご案内のとおり、前期比 2.8 倍の 6 億 5 千 6 百万円でした。
- ・ 当社はこれまで増収増益を続けてきましたが、私は今後もこの傾向が続くと見えています。当社のビジネスモデルは、徹底したローコスト・オペレーションで大手保険会社に比べて割安な保険料を実現して大手のシェアを奪うというもので、保有契約件数は毎年積みあがっていきますので、今後とも、増収・増益・増配が続くと考えています。
- ・ 駆け足でのご説明となりましたが、私からのご説明は以上です。ご清聴、ありがとうございます。